

# 令和3年社会生活基本調査でみる鳥取県

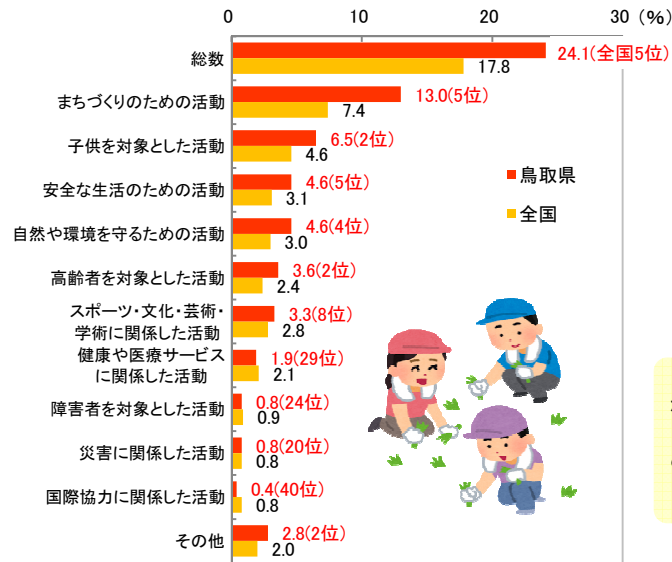
## ～1年間の主な生活行動に関する結果から～

社会生活基本調査は、生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにするもので、5年ごとに行われています。

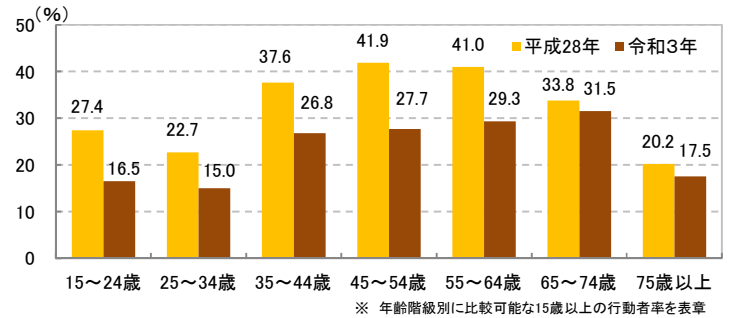
令和3年調査は、全国の約9万1千世帯に居住する約19万人、鳥取県では約1,600世帯に居住する10歳以上の世帯員を対象に、令和3年10月20日現在で実施されました。

(※) 1年間の主な生活行動の調査時期は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う2回の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」を含んだ期間となっており、感染症の影響による三密回避の日常化や数度の行動制限により、前回調査となる5年前の平成28年に比べ、自由時間における生活行動の状況について様々な変化を伴った結果となっていることがうかがえます。

### 「ボランティア活動」の種類別行動者率(10歳以上)



### 「ボランティア活動」の年齢別行動者率(15歳以上) (平成28年、令和3年)



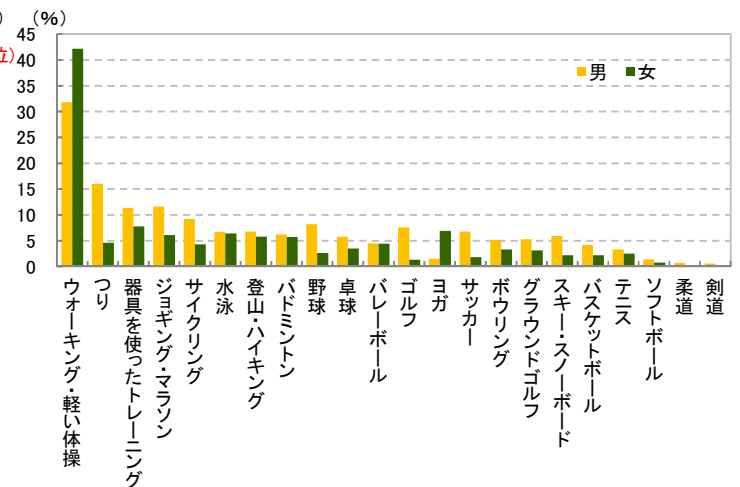
過去1年間に「ボランティア活動」を行った人の割合は24.1%で全国で5位となっています。行動者率を種類別に全国と比較すると、「子供を対象とした活動」、「高齢者を対象とした活動」、「自然や環境を守るための活動」、「安全な生活のための活動」で順位が高くなっています。

年齢別にみると、最も高かったのは「65～74歳」の31.5%となっています。

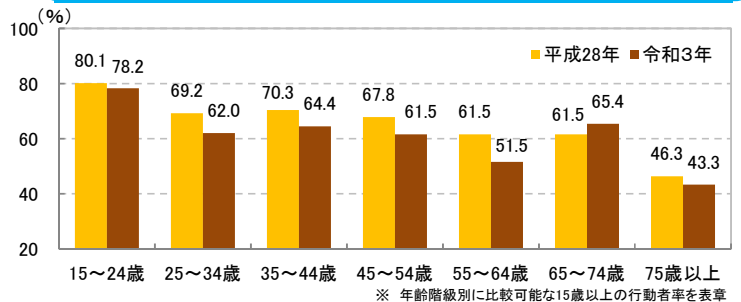
### 「スポーツ」の種類別行動者率(10歳以上)



### 「スポーツ」の男女別行動者率(10歳以上)



### 「スポーツ」の年齢別行動者率(15歳以上) (平成28年、令和3年)



過去1年間に「スポーツ」を行った人の割合は61.2%で全国で36位となっています。行動者率を種類別に全国と比較すると、「グラウンドゴルフ」、「バレーボール」、「水泳」で順位が高くなっています。

男女ともに行動者率が最も高いものは、「ウォーキング・軽い体操」で、女性が42.2%、男性が31.8%となっています。次いで、男性が「つり」、女性が「器具を使ったトレーニング」となっています。

年齢別の結果をみると、令和3年は「65～74歳」で上昇しましたが、その他の年齢については低下し、特に「55～64歳」では大きく低下しています。